

# 愛知で労働災害撲滅への 決意を新たに!

—第58回全国林材業労働災害防止大会開催—

令和4年10月13日(木) 名古屋国際会議場4号館(白鳥ホール)



大会の開会を宣言する  
神谷幸一愛知県支部長



大会式辞を述べる中崎和久会長



林業・木材製造業労働災害防止協会は、令和4年10月13日(木)、名古屋国際会議場4号館(白鳥ホール)において、「第58回全国林材業労働災害防止大会」を開催した。全国より林材業関係者が参加し、労働安全意識の高揚を図り、労働災害の撲滅への決意を新たに誓い合う日となった。

大会当日は12時20分のホール開場と同時に受付が開始され、検温とアルコール消毒を済ませた来場者が次々と参集。地域ブロックごとに入場手続きを行う来場者でロビーが賑わいを見せる中、会場正面の大型ビジョンでは愛知県の魅力を紹介するプロモーションビデオが流された。特に今年は11月1日にジブリパーク(愛知県長久手市「愛・地球博記念公園(モリコロパーク)」内)がオープンするとあって、スタジオジブリの世界観に溢れた音と映像は開場を待つ来場者の心をなごませていた。

12時50分からは活動等紹介として「株式会社緑豊の安全管理の取組」と題して、同社総務部長の澤田真之介氏による講演が行われた。愛知県豊田市和合町にある同社では、1997年の会社設立に先駆け、1995年には県内でもいち早く高性能林業機械を導入し、高効率化と安全性のバランスを重視した事業を展開してきた。従業員数は6名と少数精鋭ながら森林のプロを養成し、人材育成と高い生産性を両立させてきている。



活動等報告を行った澤田真之介氏



厚生労働大臣の祝辞を読み上げる美濃芳郎安全衛生部長



林野庁長官の祝辞を読み上げる前田剛志林政部長



祝辞を述べる大村秀章愛知県知事



祝辞を述べる河村たかし名古屋市長

そんな同社では「山林に入ると現場との通信が難しい」という問題を解決する方法として、ジオチャットシステムを試験的に導入する。これは全国的にもあまり使用例がない段階での現場試験であったが、約20数キロ離れた現場まで中継器3台を経由して通信を繋げることに成功。一度繋がれば確実に通信できるというメリットがある一方、場所を移動すると再構築しなければならないといったデメリットなど解決すべき課題を確認できたという。

その他、ポータブルip通話システムの検討や衛星携帯電話を導入するなど先進的技術を積極的に活用する一方、現場で事故が発生しないようにすることも重要視して、基本的な安全対策を徹底して防災につなげたいとの報告となった。

続いて13時20分からは特別講演として「安全意識を向上させるための究極のコミュニケーション」と題して、株式会社浅野屋代表取締役でビジネス心理コンサルタントの岸



ご来賓の皆様



主催者

正龍氏より講演をいただいた。

地元名古屋で自ら立ち上げた7坪の小さな眼鏡雑貨店を、世界10カ国200店舗で扱われる眼鏡ブランドへと成長させた岸氏からは、30年にわたり現場で培ったビジネスノウハウや豊富な事例を紹介しながら、「人の心理」や「言葉」によって安全意識を向上させる究極のコミュニケーションが作り出せることを、ときにユーモアを交えながら、わかりやすくお話しいただいた。

午後2時50分より、林業・木材製造業の労働災害により亡くなられた方に対して黙とうが捧げられた。



特別講演を行った岸正龍氏



事業場優良賞の  
徳島県三好東部森林組合



事業場賞進歩賞代表の  
株式会社緑豊



団体賞代表の  
西三河林材団体連合会



個人功労賞代表の  
中西一夫氏

神谷幸一愛知県支部長から「この大会がここ愛知県で開催されるにあたり、これまでご指導ご協力を頂きました関係者の皆様に対し、深く感謝申し上げます。林材業関係者の労働安全衛生に対する意識の高揚を図るとともに、全国の林材業の関係者、関係諸官庁に対しまして労働災害撲滅の強い決意を発信し、労働災害ゼロを目指すことができる機会となる有意義な大会となるよう願っております。」という開会のことばが述べられた。来賓祝辞では、厚生労働大臣（美濃芳郎安全衛生部長代読）、林野庁長官（前田剛志林政部長代読）、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長により、それぞれ祝辞が述べられた。

また、来賓として代田雅彦愛知労働局長、関口高士中部森林管理局長、溝口進中央労働災害防止協会総務部長が出席した。続いて、林材業の労働災害の防止に多大な貢献・功績を上げられた事業場、個人への表彰として、労働災害防止及び安全衛生管理活動に積極的に取り組み、安全成績及び衛生水準が著しく良好で、ほかの模範となる事業場に贈られる事業場優良賞1事業場のほか、事業場賞進歩賞3事業場、団体賞2事業場、個人功労賞12名、個人功績賞4名が表彰され、各賞の代表者がそれぞれ登壇し、中崎和久会長から表彰状並びに記念品が授与された。

受賞者を代表し、団体賞を受賞した愛知県北設林材業協議会・青山晃氏より「私どもは、この度の受賞を契機に労働災害のない職場づ

くりに向けて経営トップから現場に至るまで全員で安全衛生管理の推進と労働災害防止に一層努めて参ります。今後ともよろしく御指導御鞭撻賜りますようお願い申し上げますとともに、ここに私ども受賞者の決意の一端を述べ、御礼の言葉とさせていただきます」と謝辞が述べられた。



個人功績賞代表の  
物部恭喜氏



受賞者代表として謝辞を述べる北設林材業協議会の  
青山晃氏（団体賞受賞）



感謝状の授与

# 大会式辞

林業・木材製造業労働災害防止協会  
会長 中崎 和久



第58回全国林材業労働災害防止大会に全国各地から会員事業場、林材業関係者、関係機関の皆様にご参加いただき、厚く御礼申し上げます。また、この大会の開催に当たり、ご協力を賜りました愛知県、名古屋市、関係行政機関及び関係各位に併せて御礼申し上げます。

本大会は、年に一度、全国の林材業関係者が一堂に会し、「労働安全衛生意識の高揚を図り、労働災害撲滅への決意を新たにすること」を目的に、昭和39年の協会創立以来、コロナ禍により延期となった令和2年を除き毎年開催されてまいりました。本年は愛知県支部にご苦勞をいただきながら、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、第58回目の大会を開催できる運びとなったことに、あらためて関係者の皆様に感謝申し上げます。

さて、当協会は設立以来、皆様のご理解とご支援のもと、林材業の労働災害防止活動の援助・支援のためのさまざまな事業を展開し、林材業の労働安全衛生分野の専門家集団として林材業の作業特性を的確にとらえ、長年にわたり蓄積した労働安全、労働衛生の知識や労働災害防止のノウハウを活かして、林材業の労働安全衛生の水準の向上を目指してまいりました。

この間、関係者各位の弛まぬご努力の成果もあって、林業、木材製造業における労働災害発生件数は長期的には着実な減少を続けておりますが、未だに悲惨な災害は後を絶ちません。

当協会は、国の「第13次労働災害防止計画」に基づき策定した「林材業労働災害防止計画（5カ年計画）」において、死亡災害は撲滅を目指して令和4年までに39人（林業34人、木材製造業5人）を下回ることで、死傷災害は平成29年と比較して令和4年までに5%以上減少させることを目標として労働災害防止対策を進めているところであり、本年はその最終年となります。

第13次防の4年目であった令和3年の災害発生状況は、休業4日以上死傷労働災害については、林業は対前年比40人減の1,235人、木材製造業は同79人増の1,124人でした。

また、死亡災害は、林業では対前年比6人減の30人、木材製造業では対前年同数の7人でした。

これを第13次防の基準年である平成29年値と比べてみると、林業は、死傷災害で6.0%減少し、死亡災害で25.0%減少しています。また、木材製造業は、死傷災害で5.6%減少していますが、死亡災害で16.7%増加となっており、木材製造業の死亡災害以外は、目標とする減少率を上回る状況で推移しています。

私どもは、第13次防で林業が重点取組業種として指定されたことを重く受け止め、労働災害の状況を的確にとらえた実効ある対策を確実に進めるため、林野庁

と連携した災害防止対策の特別活動、林業・木材製造業労働災害防止規程の遵守徹底、リスクアセスメントの普及促進のほか、安全管理士及び林材業労働災害防止専門調査員による個別指導や集団指導会などの取組を進めています。

また、中高年齢者と経験年数10年以下の新規就業者の死亡災害の発生率が高いことから、国が公表した「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」も踏まえながら高齢労働者と新規就業者の災害防止対策などの再発防止対策に重点的に取り組んでいます。

さらに、労働安全衛生規則及び関係ガイドラインに基づき、車両系木材伐出機械及び伐木等作業に係る作業計画が事業場において適切に作成されるよう、会員の皆様をはじめ、林材業事業の皆様にも周知、指導を行っています。

労働災害防止の有効な手法であるリスクアセスメントについては、「実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会」を開催し、特に木材製造業の小規模事業場に向けた「出前集団指導会」のメニューを用意して職場での実践によって労働災害防止につなげていただくなど、その普及定着と会員の自主的な安全衛生活動による職場環境づくりの支援を行っています。これらの活動によって、死傷災害が減少し、ひいては労働災害の撲滅につながっていくことを強く願っています。

特に本年度におきましては、「林材業労働災害防止計画（5カ年計画）」の最終年度として、目標達成に向け、5カ年計画に基づく各種対策の一つひとつ着実に実施することとしています。

また、同種災害防止の観点から、計画期間中に発生した死亡災害の主な「類型ごとの原因と対策」を取りまとめたパンフレットを会員の皆様にお送りしております。会員事業場におかれましては、「類型ごとの原因と対策」を作業員の方々に周知して日常作業に反映していただくよう、朝礼の挨拶の素材、ヒヤリハットの洗い出しのヒント、作業手順を見直す材料や職員会議の資料としてご活用いただくことをお願いいたします。

労働者の安全と健康を確保し、労働災害ゼロを目指すためには、事業場における組織的、継続的な安全管理を実施する仕組みを整備することが不可欠であり、経営トップが率先して安全衛生活動に取り組む姿勢をお示しいただくことが重要です。

また、協会が作成した「今日の作業ポイントカード」、「事業場自主点検表チェックリスト」を活用するなどして、作業員の方々の基本動作、標準作業の定着に努めていただくとともに、日々のリスクアセスメントやKY活動などの実践により、危険性、有害性の洗い出しや危険への感受性を高めていただき、事業主と労働者が一体となって労働災害防止活動を推進していただくことを重ねてお願いいたします。

本日、大会にご参集の皆様方一人ひとりが安全宣言の決意を深く胸に刻み、それぞれの地域や事業場において、労働災害のない職場づくりに積極的に取り組んでいただき、林業、木材製造業の労働災害ゼロを達成できることを心から願っております。

## 大会宣言

わが国の林材業における労働災害は、会員事業場と林材業関係者のたゆまぬ努力により、現在の被災者数は減少傾向にあるものの、いまだ、年間2千3百余名の労働者が被災し、その中で30人を超える尊い生命が犠牲となっている。

労働災害をいかにして「ゼロ」にするかは、経営トップと働く一人ひとりが強い意志をもって、安全衛生活動に積極的に取り組むことが最も重要である。

わが国の貴重な財産である森林から得る恩恵に皆が感謝し、健康で安全な作業を続けることを確認し合う機会とするため、第58回全国林材業労働災害防止大会を開催した。

本日、私たちは、第13次労働災害防止計画を踏まえて策定した「林材業労働災害防止計画」の取り組むべき事項を再認識し、最終年度を迎えた今年は、全ての活動においてその実現に向けさらに積極的に取り組むとともに、改めて、安全と健康が最優先との原点に立ち、労働災害ゼロの合言葉『怖いのは 慣れと過信と 思い込み』を掲げ、以下に述べる安全行動を最重点とする誓いを、今、ここ愛知で表明する。

- 1 「林業・木材製造業労働災害防止規程」に定められた安全衛生教育の実施並びに安全な作業手順と、正しい作業方法を守る
- 2 林材業リスクアセスメントの普及・定着にすべての事業場で取り組む
- 3 林材業労働災害防止計画の究極的な目標である労働災害ゼロを、すべての事業場で目指す以上のとおり、宣言する。

令和4年10月13日

第58回全国林材業労働災害防止大会



大会宣言を行う豊根森林組合の石原雅也さん

その後、長年にわたり労働災害防止活動に努力し、協会業務の運営と活動の推進に尽力された4名の方々に感謝状が贈られた。

大会宣言では、豊根森林組合の石原雅也さんが登壇。安全行動を最重点とする誓いを宣言し、会場の盛大な拍手をもって採択された。

そしてプログラムの最後に、次期開催県挨拶として、来年度の全国大会開催地の広島県

支部長小林秀矩氏より「安全・安心の大会が無事開催できるよう全力で取り組み、関係者のみなさまのお越しをお待ち申し上げます。」と次期開催への決意を表明した。

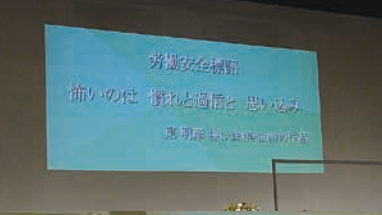
菅野康則副会長の閉会の言葉をもって、第58回全国林材業労働災害防止大会は盛会のうちに終了した。



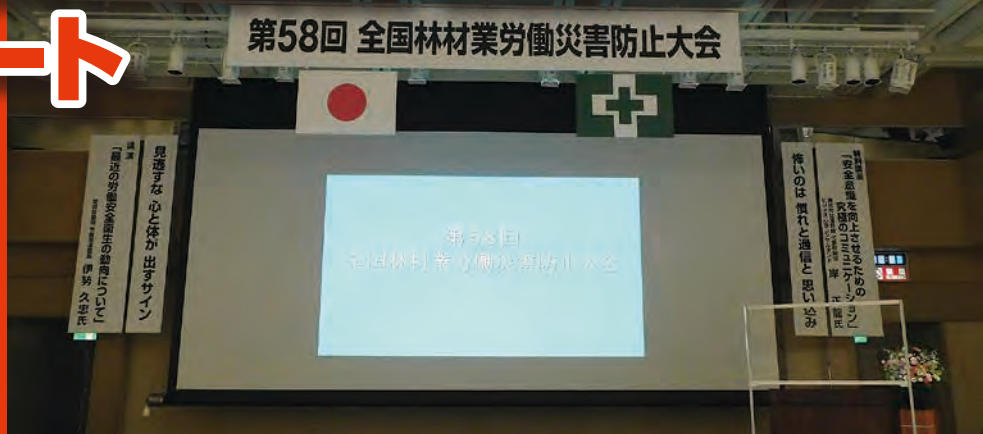
次回大会への参加を呼びかける  
広島県支部小林秀矩支部長



閉会宣言を行う菅野康則副会長



# 第58回全国林材業労働災害防止大会 フォトレポート



10月13日、愛知県名古屋市の名古屋国際会議場で第58回全国林材業労働災害防止大会が開催されました。イタリアルネッサンスの巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチの作品を再建した世界最大のスフォルツァ騎馬像が見守る会場には、開場時間前から来場者が詰めかけました。また、開会前には愛知県をPRするプロモーションビデオ「風になって、遊ぼう」では、美しい棚田で有名な四谷の千枚田やアニメ映画「となりのトトロ」に登場する草壁家を再現したサツキとメイの家など、愛知県の名所が次々と紹介され、参加者を魅了しました。

このほか、活動等紹介や労働安全標語の紹介などが行われ、労働災害防止への決意みなぎる大会となりました。

